

年間授業計画

三宅 高等学校 令和5年度（2学年用）教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 N組～ F組

教科担当者：（N組：坂田）（F組：坂田）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（論理国語（大修館））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、ことばに対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の国語の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話	書	読					
1 学 期	評論の基本的な読み方を学ぶ	気持ちよさという罪／チンパンジーは「おせっかい」をしない／科学と市民			○				9
	評論読解Ⅰ	いのちのは誰のものか？／晴れた空の下で			○				5
	定期考査					○	○		1
	評論読解Ⅱ	集落の創造／もどかしさの融合／「可能性」としての貨幣			○				9
	様々な文章を書く	世界の見え方を変える／「書く」ことへの挑戦——問いを生む／議事録を作る／ゲームのルールをまとめる			○				5
定期考査					○	○		1	



年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科：地理歴史 科目：地理総合 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 N組

教科担当者：（N組：齋藤）（組：）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（地理総合（東京書籍）、新詳高等地図（帝国書院））

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解する。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	○緯度・経度の違いが、私たちの生活にどのような影響を与えているのか理解する。 ○地球儀と世界地図の違いを理解し、用途に応じて適切に利用できるようにする。 ○日本の位置と領域を理解する。	私たちが暮らす世界 1 緯度・経度 2 地球儀と世界地図 3 日本の位置と領域	・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 ・地球上の位置に関する事柄について多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高めている。	○	○	○	6
	○さまざまな地図があることを理解し、地図利用の可能性を考える。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けのかを考察する。	地図や地理情報システムの役割 4 地図の種類 5 地形図のルール 6 主題図の種類と読み取り 7 地理情報システムと地図	・地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 ・様々な地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 ・紙の地図やGISに対する関心高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえようとしている。	○	○	○	5
	○定期考査			○	○		1
	○交通・通信技術の発達により人やモノ、情報が国境をこえてやり取りをされるようになったことについて、適切に理解する。 ○国境をこえた経済活動や政治的なつながりが、人・モノ・情報などのやり取りに大きく影響を及ぼしていることに着目し、現代世界におけるグローバル化の進展について課題意識をもって考察する。	資料から読み取る現代世界 8 交通の発達 9 情報通信の発達 10 国境をこえる人々の移動 11 拡大する貿易 12 つながる世界、多極化する世界	・交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択肢で、読み取ったり図表などにまとめている。 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結びつきが強まっていることに対する関心と課題意識高め、それを意欲的に追求しようとしている。	○	○	○	12
○定期考査			○	○		1	
2 学期	○世界には多様な文化が存在すること、近年それが均一化する傾向にあることを理解する。 ○地形や気候が地域によってどのように異なるのか、それらが人々の生活にどのように影響を与えてきたかを考察する。	人々の生活文化と多様な地理的環境 1 生活文化の多様性と国際理解 2 生活文化と自然環境 3 生活文化と産業	・世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○	○	○	15
	○定期考査			○	○		1
	○地球環境問題の背景と影響を理解し、解決策を考察する。 ○さまざまな資源・エネルギーの特徴を理解し、生産や消費のあり方を考える。 ○地球規模で取り組むべき課題の内容や特徴を確認し、解決や改善に向けた取り組みを考える。	さまざまな地球的課題と国際協力 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口問題 4 食糧問題 5 居住・都市問題 6 民族問題 7 持続可能な社会の実現をめざして	・さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する関心高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○	○	○	12
○定期考査			○	○		1	
3 学期	○日本列島の自然環境の特徴について世界的な視点からとらえるとともに、地形と気候の両面から理解する。 ○日本列島の自然環境の特徴と各地域において発生する自然災害との関係性について、世界的な視点から考察する。	自然環境と防災 1 日本の自然環境の特色 2 さまざまな自然災害と防災	・変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○	○	○	10
	○地域調査の手順や具体的な手法を理解し、身近な地域において地域調査を実践する。	生活圏の調査と地域の展望	・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめている。 ・身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿ってとらえ、明らかになったことを適切に表現している。	○	○	○	5
	○定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共

単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 組～組

教科担当者：（F組：金谷）（NK組：金谷）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（高等学校 公共（帝国書院））

教科 公民

の目標：

【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断のための概念や理論を理解するとともに、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
			知	思	態	
【青年期と社会参画】 青年期における自己と社会のあり方の理解に基づき、社会に参画する自立した主体としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて社会形成とそれに結びつく、みずからのキャリア形成について理解する。	1 私たちの生きる現代社会 2 青年期について考えよう 3 悩むことについて考えよう 4 ジェンダーについて考えよう 5 学ぶことについて考えよう 6 社会参画とキャリアについて考えよう	【知識・技能】 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、みずからのキャリア形成と共によりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。 【思考・判断・表現】 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	7
【宗教・思想・伝統文化と社会】 私たちが生きる社会を形成する伝統や文化、宗教、古来の日本人の考え方や文化への理解に基づき、私たちはお互いの立場を理解し合う社会的な存在であることについて自分の意見を表現することを通じてみずからの価値観や他者の価値観、それらを形成する背景や要因について理解する。	1 宗教について考えよう 2 日本の思想について考えよう 3 日本の伝統と文化について考えよう	【知識・技能】 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通して、みずからの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解している。 【思考・判断・表現】 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	5
1 定期考査			○	○		1
1 学期 【倫理的な見方・考え方】 先哲の考え方の理解に基づき、公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する	1 よく生きる 古代ギリシャの思想 2 人とは何か 古代中国の思想 3 動機と結果 近代西洋の思想 4 公平と正義 現代の思想	【知識・技能】 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 【思考・判断・表現】 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、みずからも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとし	○	○	○	6

	<p>【社会の基本原則と憲法の考え方】 公共的な空間における基本原則としての日本国憲法の考え方の理解に基づき、個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定等の大切さ、公共的な空間に生じる課題を探究することの大切さ等について理解する。</p>	<p>1 近代立憲主義の原理 2 近代立憲主義の広がり 3 日本国憲法 4 平等に生きる権利 5 自由に生きる権利① 6 自由に生きる権利②</p>	<p>【知識・技能】 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	<p>【社会の基本原則と憲法の考え方】 ※前項目と同様</p>	<p>7 人間らしく生きる権利 8 広がる人権の考え方 9 人権保障の国際的な広がり</p>	※前項目と同様	○	○	○	5
	<p>【法の意義と司法参加】 法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、みずからの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を高める。</p>	<p>1 社会規範と法 2 私たちの生活と法 3 契約の考え方 4 消費者の権利と責任 5 司法の役割 6 刑事裁判とその課題</p>	<p>【知識・技能】 法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きにのっとり、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。①現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した法的主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
2 学 期	<p>【民主社会と政治参加】 さまざまな意見や利害を調整するという政治の意義や統治機構のしくみの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取り組みについて、自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理解する。</p>	<p>1 政治と権力 2 議院内閣制と国会 3 権力分立と行政の役割 4 地方自治の役割 5 政党政治とメディア 6 選挙制度とその課題</p>	<p>【知識・技能】 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>【国際政治の動向と平和の追求】 国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、日本の固有の領土に残る問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、みずからの意見や主張を表現することを通じて、国家主権、領土、日本の安全保障と防衛、国際社会における日本の役割などについて理解する。</p>	<p>1 国家と国際法 2 日本の主権と領土 3 平和主義と日本の防衛政策 4 これからの日本の安全保障 5 国際連合の役割と活動 6 紛争とテロリズム 7 核兵器と軍縮の課題 8 国際協力と日本の役割</p>	<p>【知識・技能】 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1



年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 F 組～ 組

教科担当者： (F組： 高石 ( 組： ) ( 組： ) ( 組： ) ( 組： ) ( 組： )

使用教科書： ( 最新 数学Ⅱ )

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】基本的な公式、計算ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるように

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
新たな数や関数の概念を理解し、問題を解くことができるようになる	複素数や微積分の考え方を活用し、身近な事象について考察し、説明することができる	様々な概念を組み合わせ、数の拡張や関数の考え方を広げ、他者に説明することができる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	整式、分式、分数式の性質を理解し、問題を計算問題を解くことができる。	第1章式と証明 1 整式の乗法と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式の乗法・除法 5 分数式の加法・減法	【知識・技能】 整式、不等式の計算ができる 【思考・判断・表現】 整数の割り算を多項式に置き換えようとする 【主体的に学習に取り組む態度】 計算問題に解き方について他者に説明ができる	○	○	○	11
	恒等式、等式、不等式の性質を理解し、恒等式の計算問題及び等式、不等式の証明問題を解くことができる。	6 恒等式 7 等式の証明 8 不等式の証明 9 相加平均・相乗平均	【知識・技能】 恒等式について理解している 【思考・判断・表現】 等式、不等式の証明ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な式について証明しようとする	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	複素数の性質を理解し、複素数の計算問題を解くことができる。	第2章複素数と方程式 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係	【知識・技能】 複素数について理解している 【思考・判断・表現】 解と係数の関係について理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な二次方程式に解と係数の関係を活用しようとする	○	○	○	11
	剰余の定理と因数定理について理解し、高次方程式に活用することができる。	4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式の解法	【知識・技能】 高次方程式の解き方を理解している 【思考・判断・表現】 剰余の定理と因数定理を活用できる 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な方程式に因数定理を活用しようとする	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
2 学期	図形について理解し、その図形の方程式を求めることができる。	第3章図形と方程式 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直 5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡	【知識・技能】 円について理解している 【思考・判断・表現】 図形の方程式を求められる 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な図形の方程式を求めようとする	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	三角比を拡張し、三角関数について考察し、問題を解くことができる。	1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数のグラフ 5 三角関数を含む方程式不等式 6 加法定理 7 加法定理の応用 8 三角関数の合成	【知識・技能】 一般角と弧度法について理解している 【思考・判断・表現】 三角関数を含む方程式と不等式を求められる 【主体的に学習に取り組む態度】 三角関数の応用について考えようとする	○	○	○	28
定期考査			○	○		1	
3 学期	指数関数、対数関数について理解し、計算問題を解くことができる。また、微分について理解し、問題を解くことができる。	第5章指数関数と対数関数 1 指数関数 2 対数関数 第6章微分法 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 接線 4 関数の増減	【知識・技能】 関数について理解している 【思考・判断・表現】 関数の微分を求めることができる 【主体的に学習に取り組む態度】 関数を微分しようとする	○	○	○	18
	積分について理解し、面積を求めることに応用することができる。	5 不定積分 6 定積分 7 面積	【知識・技能】 積分について理解している 【思考・判断・表現】 関数の積分を求めることができる 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
						合計	140



年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科：理科 科目：物理基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 NK組～F組

教科担当者：山下 恵理

使用教科書：（物理基礎 東京書籍）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	観察、実験などを行い、化学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1章運動の表し方について、観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について理解する。 運動の表し方について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 運動の表し方に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の表し方</li> <li>変位と速度</li> <li>等速直線運動</li> <li>速度の合成</li> <li>相対速度</li> <li>斜面上を運動する物体</li> <li>自由落下</li> <li>鉛直投射</li> </ul>	<b>【知識・技能】</b> 運動の表し方について、観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 運動の表し方について、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 運動の表し方に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	2章さまざまな力とそのはたらきについて観察、実験などを通して、様々な力、力のつり合い、運動の法則、物体の落下運動について理解する。 さまざまな力とそのはたらきについて、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 さまざまな力とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>力のはたらきと表し方</li> <li>2力のつりあい</li> <li>さまざまな力</li> <li>力の合成と分解</li> <li>3力のつり合い</li> <li>慣性の法則</li> <li>運動の法則</li> <li>作用・反作用の法則</li> </ul>	<b>【知識・技能】</b> さまざまな力とそのはたらきについて観察、実験などを通して、様々な力、力のつり合い、運動の法則、物体の落下運動について理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> さまざまな力とそのはたらきについて、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> さまざまな力とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	○	○	○	8
	3章力学的エネルギーについての観察、実験などを通して、運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存について理解する。 力学的エネルギーについて、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 力学的エネルギーに関する事物・現象に主体的に関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事</li> <li>仕事率</li> <li>運動エネルギー</li> <li>位置エネルギー</li> <li>保存力</li> <li>保存力以外の力</li> </ul>	<b>【知識・技能】</b> 力学的エネルギーについての観察、実験などを通して、運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存について理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 力学的エネルギーについて、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 力学的エネルギーに関する事物・現象に主体的に関わる。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1	
2 学 期	1章熱についての観察、実験などを通して、熱と温度、熱の利用について理解する。 熱について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 熱に関する事物・現象に主体的に関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>温度</li> <li>熱膨張</li> <li>熱平衡</li> <li>熱</li> <li>物質の三態</li> <li>潜熱</li> <li>熱量の保存</li> <li>熱容量と比熱容量</li> <li>内部エネルギー</li> <li>熱力学第一法則</li> <li>熱機関</li> <li>可逆変化と不可逆変化</li> </ul>	<b>【知識・技能】</b> 熱についての観察、実験などを通して、熱と温度、熱の利用について理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 熱について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 熱に関する事物・現象に主体的に関わる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	2章波についての観察、実験などを通して、波の性質、音と振動について理解する。 波について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 波に関する事物・現象に主体的に関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>波</li> <li>波のグラフ</li> <li>波の重ね合わせ</li> <li>定在波</li> <li>自由端と固定端</li> <li>音</li> <li>音の3要素</li> <li>うなり</li> <li>気体の固有振動</li> </ul>	<b>【知識・技能】</b> 波についての観察、実験などを通して、波の性質、音と振動について理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 波について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 波に関する事物・現象に主体的に関わる。	○	○	○	3

	<p>3章電気についての観察、実験などを通して、物質と電気抵抗、電気の利用について理解する。 電気について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 電気に関する事物・現象に主体的に関わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静電気</li> <li>・電流</li> <li>・電圧</li> <li>・電気抵抗</li> <li>・抵抗の接続</li> <li>・電気とエネルギー</li> <li>・直流と交流</li> <li>・交流の発生</li> <li>・変圧器</li> <li>・電力の輸送</li> </ul>	<p>【知識・技能】 電気についての観察、実験などを通して、物質と電気抵抗、電気の利用について理解する。 【思考・判断・表現】 電気について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 電気に関する事物・現象に主体的に関わる。</p>	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学 期	<p>4章 エネルギーとその利用について、物理的な側面から理解させる。 エネルギーとその利用について、問題を見出し、科学的に考察し表現する。 エネルギーとその利用に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなエネルギー</li> <li>・エネルギーの変換と保存</li> <li>・原子の構造</li> <li>・放射線と核エネルギーの発見</li> <li>・放射線の強さと半減期</li> <li>・放射線の種類と利用</li> <li>・放射線の人体への影響</li> <li>・核分裂</li> <li>・核融合</li> <li>・生命の営みとエネルギー</li> <li>・人間生活とエネルギー</li> <li>・持続可能な社会の実現」</li> </ul>	<p>【知識・技能】 エネルギーとその利用について、物理的な側面から理解させる。 【思考・判断・表現】 エネルギーとその利用について、問題を見出し、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 エネルギーとその利用に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
					○	○	合計

年間授業計画

**三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 地学基礎**

教科：理科 科目：地学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 NK組～ F組

教科担当者：加園 明貴

使用教科書：（高等学校 地学基礎 第一学習社）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 地学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、現象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。	地学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
			知	思	態	
第1章 地球のすがた 第1節 地球の概観 地球の測定方法や回転楕円体であることを理解させる。地球の内部構造について学習し、マントルの動きについて理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の形と大きさ</li> <li>地球の形や大きさについて、エラトステネスの測定方法を学習する</li> <li>地球の形の特徴と大きさ</li> <li>地球が赤道方向に膨らんだ回転楕円体であることを学習する。</li> <li>地球の内部構造</li> <li>地球内部の層構造について、構成する物質や性質の違いなど、各層の特徴を理解する。</li> <li>地球内部の動き</li> <li>地球表層部のかたさによる区分とマントル内の動きについて学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <p>エラトステネスの測定法をもとに、計算によって地球の大きさを求めることができる。地球が回転楕円体であることを理解している。地球の層構造、地球内部の構成物質や性質の違いを理解し、地球内部の動きを知識として身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>地図を利用した実習を行うことによって、地球の正確な形を考察することができる。地球を構成する元素を示すグラフを判読し、地球内部の構成物質の違いについて考察することができる。岩石と鉄の密度を調べる実験を通して、地球内部の各層の密度の違いを比較することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>数学的な知識から、地球の形や大きさについて与えられた課題の解決を図ろうとしている。中学で学んだ岩石の知識をもとに、地球内部の物質の違いについて理解を深めようとしている。直接調べることができない地球内部のようすについて、科学的根拠をもとに考察を進め、課題や疑問を見いだしている。</p>	○	○	○	5
第2節 プレートの運動 プレートの種類や教会について理解させる。また、プレートの動きと断層が関連していることを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレートの分布と運動</li> <li>世界のプレートの分布を学び、海洋と大陸でのプレートの厚さや動きの違いを理解する。</li> <li>プレートの境界</li> <li>プレートの3つの境界と、それぞれの境界に見られる地形の特徴を学習する</li> <li>地殻の変動と地質構造</li> <li>断層や褶曲の形成状況について考え、これをプレートの動きとの関連で理解する。</li> <li>変性作用</li> <li>プレートの動きに伴って、地下で形成された変成岩を中心に、岩石の変成作用について学習する</li> <li>大地形の形成</li> <li>造山帯の形成について考え、大陸地殻の形成・成長過程を学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <p>プレートの種類と世界のプレートの分布を理解している。変成岩を、組織や鉱物の種類から分類することができる。世界の大山脈が、プレートの収束境界で生じた造山運動で形成されたことを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>プレートの動きから、プレート境界で見られる地形的な特徴を説明することができる。断層や褶曲を、その形態から分類し、どのように形成されたかを考察できる。沈み込み帯と衝突帯で形成された大山脈の違いを比較し、説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>中学で学習したプレートの概念を、より正確なものとして体系的に理解しようとしている。</p> <p>身近な断層や褶曲、変成岩に興味をもち、その形成について考察し、理解を深めようとしている。プレートの運動から造山帯の形成を統一的に説明するため、プレートの動きや構成する岩石の種類、地質構造を検討して、課題を見だし、解決しようとしている。</p>	○	○	○	5
定期考査			○	○		1
1学期 第2章 地球の活動 第1節 地震	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の発生と分布</li> <li>地震の発生のしかたについて考え、世界の地震の分布の特徴を理解する。</li> <li>地震はの伝わり方</li> <li>地震波の特徴を学び、震源の決定のしかたを理解する。</li> <li>日本付近で発生する地震</li> <li>日本付近の地震の分布とプレートとの関連や、日本付近で発生する地震のタイプについて学習する</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <p>世界と日本付近における地震の分布について、プレート境界との関係などの特徴を理解している。大森公式をもとに、初期微動継続時間から震源までの距離を計算によって求めることができる。日本付近の地震について、プレートの動きと関連付けて、発生のしくみや特徴を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>世界の地震の分布から、地震の発生とプレートの分布や運動との関連を説明することができる。日本付近の地震の分布図を利用した実習を行うことによって、日本付近の地震の分布の特徴を見いだすことができる。日本付近の地震の分布図および南海地震前後の室戸岬の変動を示すグラフから、地震のおこるしくみについて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>中学で学習した地震の知識をもとに、地震の分布の特徴や、震源の決定のしかたについて理解を深めようとしている。地震の分布や地下のプレートに関する資料から、地震の発生とプレートの動きとの関連について検討して、課題や疑問を見いだしている。</p>	○	○	○	4

<p>第2節 火山活動 火山が形成される仕組みについて、前節のプレートと関連づけ、理解させる。また、噴火の仕組みや性質、地形との関係について理解させる。火成岩の種類について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山の分布 世界の火山分布と日本の火山分布について学習する。</li> <li>・火山の形成とマグマ 火山が形成されるしくみについて、プレートと関連付けて、地域の特徴などを理解する。</li> <li>・火山の噴火 噴火のしくみや火山噴出物について学習する。マグマの性質と噴火の様式の関係について学習する。</li> <li>・火山の地形 マグマの性質と火山の形の関係について学習する。</li> <li>・火成岩の形成 火成岩のさまざまな産状や、観察される組織について学習する。</li> <li>・火成岩の種類 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し、火成岩の分類について理解する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 世界および日本の火山分布や、火山の形成される地域のプレートの分布などの特徴を理解している。火山噴出物の種類や、マグマの性質と噴火の様式および火山の形の間連について理解し、知識として身に付けている。双眼実体顕微鏡による火山灰の観察では、火山灰を採取し、実体顕微鏡を操作してスケッチ、写真撮影を行い、鉱物や火山ガラスの特徴をとらえられる。偏光顕微鏡による火成岩の観察では、プレバートの作成から準備し、偏光顕微鏡を操作してスケッチし、岩石名を決定することができる。火成岩の組織と、岩石中に含まれる造岩鉱物の量をもとにして、岩石名を判断することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 世界および日本の火山分布から、火山の形成とプレートの分布や運動との関連を説明することができる。マグマの性質と噴火の様式や火山の形を示す表から、実際の火山について、噴火のしかたやその形とマグマの性質との関連を考察することができる。双眼実体顕微鏡による火山灰の観察を通して、火山噴出物と溶岩の性質との関係について考察することができる。偏光顕微鏡による火成岩の観察を通して、組織の違いなどを比較し、火成岩のなりたちについて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した火山活動や火成岩の知識をもとに、理解を深めようとしている。世界および日本の火山分布や地下のプレートに関する資料から、火山の形成とプレートの分布や運動との関連について検討して、課題や疑問を見いだしている。火成岩の産状や分類に関心を持ち、偏光顕微鏡による火成岩の観察などを通して、火成岩のなりたちについて理解を深めようとしている。</p>	○	○	○	6
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>第3章 大気と海洋 第1節 地球のエネルギー収支 大気の組成や温度との関係について理解させる。太陽放射と地球放射について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気の構成と特徴 大気の組成や圧力を学習する。高度の変化に伴う気温の変化と大気圏区分の関係性を学習し、大気圏の構造を理解する。</li> <li>・対流圏における水の変化 x 大気中の水の変化について学習し、雲の発生と降水のしくみについて理解する。</li> <li>・太陽放射と地球放射 太陽放射と地球放射について学習する。</li> <li>・地球を出入りするエネルギー 地球のエネルギー収支や、温室効果や放射冷却について学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 大気圏の構造の特徴や大気中で見られる現象を理解し、知識として身に付けている。高度別の気温のデータから、グラフを作成し、気温減率を計算によって求めることができる。飽和水蒸気圧と温度との関係を示すグラフから、相対湿度を計算によって求めることができる。太陽放射と地球放射のエネルギーを示すグラフを判読し、それらを比較することができる。地球のエネルギー収支について理解し、温室効果や放射冷却についての知識を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 大気圏の構造を示すグラフを判読し、大気圏が高度による気温の変化にもとづいて区分されていることを確認することができる。太陽放射と地球放射の波長とエネルギーのグラフから、太陽放射と地球放射を比較し、説明することができる。地球のエネルギー収支の図から、地球の温度が安定している理由を考察し、説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した大気圧の知識をもとに、高度の変化に伴う気圧の変化について理解しようとしている。大気圏の構造の特徴に興味を持ち、各種の気象情報をもとに考察して、課題や疑問を見いだしている。地球のエネルギー収支の平衡について関心を持ち、太陽放射と地球放射の特徴や、温室効果・放射冷却などの現象との関連について考察し、理解を深めようとしている。</p>	○	○	○	5
<p>第2節 大気と海水の運動 風が起こる仕組みや大気の大循環について理解させる。また、海洋の構造や循環について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー収支の緯度分布 緯度ごとのエネルギー収支を学習し、南北の熱の輸送について理解する。</li> <li>・風 風がおこるしくみについて理解する。</li> <li>・大気の大循環 中緯度・高緯度地域の大気の大循環について理解する。</li> <li>・海洋の構造 海水の塩分と温度について学習し、海洋の層構造を理解する。</li> <li>・海洋の大循環 海洋の表層の循環と深層に及ぶ循環について学習する。</li> <li>・エルニーニョ現象とラニーニャ現象 低緯度地域の大気のエルニーニョ現象とラニーニャ現象について学習する。大循環について理解する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 データをもとに、緯度ごとのエネルギー収支のグラフを作成することができる。風が吹くしくみを理解し、海陸風、季節風、偏西風の違いを知識として身に付けている。海水の塩分と温度について理解し、海洋の層構造を知識として身に付けている。塩水を用いた実験では、海洋で海水が形成されるようすを再現し、液体の塩分を計算することができる。緯度ごとのエネルギー収支について理解し、地球規模の大気と海洋の循環や大気と海洋の相互作用について、知識を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 緯度ごとのエネルギー収支のグラフから低緯度地域の熱が高緯度地域へ輸送されていることを考察できる。気象衛星画像から、雲の分布を判読し、大気の大循環との関連を考察することができる。海面水温の分布の図から、特徴を見だし、考察することができる。塩水を用いた再現実験を通して、氷の形成前後の塩分の変化から、海洋の深層に及ぶ循環のしくみについて考察することができる。エルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生したときに、日本の気候に与える影響について考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 緯度によるエネルギー収支、地球規模の大気の大循環に関心を持ち、地球の大気に吸収された太陽エネルギーのゆくえと、その働きについて意欲的に学習しようとしている。地球規模の海洋の大循環に関心を持ち、海水の塩分や温度、海洋の構造と関連させて、表層循環と深層に及ぶ循環について理解を深めようとしている。大気と海洋の相互作用に関心を持ち、エルニーニョ現象やラニーニャ現象についての学習を通して、理解を深めようとしている。</p>	○	○	○	7
<p>定期考査</p>			○	○		1

2 学 期	<p>第4章 宇宙と地球 第1節 宇宙と太陽の誕生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇宙の探究 宇宙の探究についての歴史を学習する。</li> <li>宇宙の始まり ビッグバンや元素の誕生について学習し、宇宙の始まりを理解する。恒星や銀河について学習し、銀河系の構造を理解する。</li> <li>太陽の誕生 太陽の誕生について学習し、現在の太陽の特徴を理解する。</li> <li>太陽の活動 現在の太陽の表面や外層でおこっている活動について学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 宇宙の誕生過程を理解し、ビッグバンや宇宙の晴れ上がりなどの現象について知識を身に付けている。絶対温度Kについて理解している。銀河系の構造について、バルジやディスク、ハローを区別できる。太陽の誕生過程や、太陽の活動について理解し、知識として身に付けている。星団の観察を通して、星団の位置を確認することができる。天体望遠鏡を用いて、太陽の黒点を観察し、移動のようすや数・形の変化などを記録することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 宇宙の始まりの図を用いて、ビッグバンから宇宙の晴れ上がりまでのストーリーを説明することができる。銀河系の構造図から、私たちの住む太陽系がどのくらいの大きさなのか考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 宇宙の始まりに関心をもち、現在のすがたに至るまでの過程について意欲的に探究しようとしている。中学で学習した太陽や銀河系の知識をもとに、太陽の活動や銀河系の構造などについて理解を深めようとしている。太陽に関心をもち、地球上にさまざまな影響を与える太陽の活動やエネルギーについて意欲的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	5
	<p>第2節 太陽系と地球の誕生 太陽系について学習し、惑星の形成過程や違いについて理解させる。地球に生命が誕生した条件について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽系の構造 太陽系を構成する天体について学習する。</li> <li>太陽系の誕生 太陽系、地球型惑星、木星型惑星の誕生過程について学習する。太陽系の小天体について、形成過程や起源物質などの特徴を学習する。</li> <li>太陽系の惑星地球型惑星と木星型惑星の環境や特徴について学習し、違いを理解する</li> <li>生命の惑星・地球 生命が存在する条件について学習し、地球だけに生命が誕生した理由を理解する。原始地球の進化の過程について学習し、原始地球の環境変化を理解する</li> </ul>	<p>【知識・技能】 太陽系を構成する天体の誕生過程や起源などそれぞれの特徴について理解し、知識として身に付けている。天体望遠鏡を用いた木星の観察を行うことによって、衛星が木星のまわりを公転していることを確認することができる。惑星の環境の違いを生じさせる要因について理解し、地球にだけ生命が存在する条件を知識として身に付けている</p> <p>【思考・判断・表現】 太陽系の形成時の位置や質量などの違いと関連させて、地球型惑星と木星型惑星の内部構造の違いについて考察することができる。太陽系小天体の起源や特徴を比較し、違いを説明することができる。太陽系の惑星の環境を比較し、その違いを生じさせる要因と関連させて、説明することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した太陽系についての知識をもとに、太陽系を構成する天体とその誕生過程に関心をもち、太陽系の成り立ちについて意欲的に学習しようとしている。地球だけに生命が存在する理由に関心をもち、太陽系の惑星の環境を変化させる要因について考察し、課題や疑問点を見いだして意欲的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	5
	<p>第5章 生物の変遷と地球環境 第1節 地層と化石 地層の形成の仕組みや堆積岩について理解させる。化石の形成過程について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地層の形成 風化のしくみや河川の働き、地層の形成について学習する。</li> <li>地層の重なりと広がり 地層の重なり、かき層による地層の対比について学習する。</li> <li>堆積岩 統成作用、堆積岩の種類について学習する。</li> <li>化石と地質時代 化石のでき方、有効な示相化石と示準化石の特徴、相対年代と数値年代の違いを学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 河川の働きと地層の形成を学習して、地層の重なりやかき層による地層の対比について理解し、知識として身に付けている。露頭の写真から、不整合面を確認することができる。堆積岩の観察では、堆積物の種類などによって堆積岩を分類できる。化石と地質時代の区分について理解し、知識を身に付けている。化石による地質時代の区分を行う実験では、スケッチを行って特徴を見だし、化石を分類することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 地層の重なりや観察される特徴、含まれる化石などから、堆積環境や過去の地殻変動について考察することができる。化石による地質時代の区分を行う実験では、化石の種類と与えられた資料から、化石の生物が生息していた地質年代を推測することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 地層や堆積岩の形成に関心をもち、堆積環境や過去の地殻変動を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。地球の環境と生物の変遷に関心をもち、中学で学んだ地層や化石の知識をもとに、地質時代のできごとを解明する方法について理解を深め、意欲的に習得しようとしている。</p>	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	<p>第2節 地球と生物の変遷 地球形成後から生命誕生までの流れ、各年代での特徴について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先カンブリア時代 冥王代～太古代の地球環境と生物の変遷を学習し、初期の地球の環境や生物の出現について理解する。原生代の地球環境と生物の変遷を学習し、大気の変化が地球環境や生命活動へ与えた影響を理解する。</li> <li>古生代 カンブリア紀～デボン紀の地球環境と生物の変遷を学習し、生物の陸上進出に必要な環境を理解する。石炭紀～ペルム紀の地球環境と生物の変遷を学習し、大気の変化が地球の環境に与えた影響を理解する。</li> <li>中生代 中生代の地球環境と生物の変遷を学習する。</li> <li>新生代 古第三紀～新第三紀の地球環境と生物の変遷や、人類の出現について学習する。第四紀の地球環境と生物の変遷や、人類の進化について学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】 先カンブリア時代から新生代第四紀までの、地球環境の変化と生物界の変遷を理解し、知識を身に付けている。地質時代カレンダーを作成し、地学的なタイムスケールを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 地球の酸素濃度や二酸化炭素濃度のグラフから、生物の進化や絶滅と地球環境の変化との関連について考察することができる。海水面の変化を示すグラフを判読し、水期・間水期の繰り返しと、海水面の下降・上昇の変化との関係を確認することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した生物の進化に関する知識をもとに、地質時代の生物界の移り変わりについて理解を深めようとしている。地球環境と生物の変遷に関心をもち、環境変化と生物の進化や絶滅との関連について考察し、課題や疑問を見いだして、意欲的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	8
	<p>第6章 地球の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動</li> <li>地球温暖化による変化</li> </ul>	<p>【知識・技能】 地球の気候変動やオゾン層の変化について、</p>				

3 学 期	第1節 地球環境の科学 地球の気候変動と人間生活の関係について理解させる。	地球の気候変動や地球温暖化について学習し、地球温暖化による地球環境の変化や、人間生活との関わりを理解する。 ・オゾン層の変化 オゾン層の変化について学習し、オゾンホール形成と人間生活との関わりを理解する。	環境への影響や人間生活とのかかわりを理解し、知識として身に付けている。世界の平均気温のデータから、平均気温の上昇率を計算によって求めることができる。 【思考・判断・表現】 世界の平均気温の変化を調べる実習を行い、計算して求めた上昇率を比較し、地球温暖化が実際におきていることを見いだすことができる。地球温暖化に関する資料を判読し、地球温暖化の原因や、環境への影響や人間生活との関わりについて、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地球の気候変動やオゾン層の変化に関心を持ち、地球温暖化などの地球の環境変化と人間生活とのかかわりについて理解を深めようと	○	○	○	3
	第2節 日本の自然環境 日本の四季や天気の特徴、気象災害について理解させる。地震や火山災害について学習し、その重大性について理解させる。	・自然の恩恵 日本における自然の恩恵について学習し、日本の資源について理解する。 ・季節の変化 日本付近の気団や四季の天気の特徴を学習する ・気象災害 日本で発生する気象災害について学習する。土砂災害の発生形態による区分を学習する。日本の気象災害への対策について学習する。 ・地震災害 地震による被害の軽減 日本の地震災害とその対策について学習する。液状化や津波の発生メカニズムについて学習する。 ・火山災害と防災 日本の火山災害とその対策について学習する	【知識・技能】 日本における自然の恩恵を理解し、日本の資源について知識を身に付けている。日本の四季の天気の違いや移り変わりを理解し、衛星画像と天気図から、日本の特徴的な天気を判読することができる。日本で発生する災害やその対策について理解し、知識として身に付けている。 【思考・判断・表現】 気象観測のデータから、大雨の際に身近にどのような災害が発生する可能性があるか予測し、被害を減らす方法について考察することができる。ハザードマップから、どのような災害が発生する可能性があるか判読し、その対策について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した日本の自然環境の知識をもとに、自然環境と人間生活とのかかわりについて理解を深めようとしている。自然災害の予測や防災に関心を持ち、自然災害の特徴や予測のしかた、また、対策として行われている取り組みについて積極的に学習しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1 合計 70

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学

教科：理科 科目：化学 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 F組

教科担当者：山下 恵理

使用教科書：（化学 東京書籍）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	観察、実験などを行い、化学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	1章物質の状態変化について、観察、実験などを通して、物質の三態、熱運動、大気圧について理解する。 物質の状態変化について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 物質の状態変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の三態</li> <li>熱運動</li> <li>絶対温度</li> <li>セルシウス温度</li> <li>比熱</li> <li>潜熱</li> <li>大気圧</li> <li>蒸気圧</li> </ul>	<p>【知識・技能】 物質の状態変化について、観察、実験などを通して、物質の三態、熱運動、大気圧について理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 物質の状態変化について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】物質の状態変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	2章気体の性質について観察、実験などを通して、ボイルの法則、シャルルの法則、気体の状態方程式について理解する。 気体の性質について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 気体の性質に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボイルの法則</li> <li>シャルルの法則</li> <li>ボイル・シャルルの法則</li> <li>気体の状態方程式</li> </ul>	<p>【知識・技能】 気体の性質について観察、実験などを通して、ボイルの法則、シャルルの法則、気体の状態方程式について理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 気体の性質について、問題を見出し見通しをもつて観察、実験などを行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 気体の性質に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	8
	3章溶液の性質についての観察、実験などを通して、固体の溶解度、気体の溶解度について理解する。 溶液の性質について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 溶液の性質に関する事象・現象に主体的に関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>固体の溶解度</li> <li>気体の溶解度</li> <li>ヘンリーの法則</li> <li>溶解度曲線</li> <li>凝固点降下</li> <li>沸点上昇</li> <li>コロイド</li> </ul>	<p>【知識・技能】 溶液の性質についての観察、実験などを通して、固体の溶解度、気体の溶解度について理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 溶液の性質について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 溶液の性質に関する事象・現象に主体的に関わる。</p>	○	○	○	6
定期考査			○	○		1	
2 学 期	4章固体の構造についての観察、実験などを通して、結晶格子の立体的構造、分子の成り立ちについて理解する。 固体の構造について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 固体の構造に関する事象・現象に主体的に関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の電子配置</li> <li>イオン結晶</li> <li>結晶格子</li> <li>分子間力</li> <li>共有結合結晶</li> </ul>	<p>【知識・技能】 固体の構造についての観察、実験などを通して、結晶格子の立体的構造、分子の成り立ちについて理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 固体の構造について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 固体の構造に関する事象・現象に主体的に関わる。</p>	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	1章化学反応の熱・光についての観察、実験などを通して、熱化学方程式、化学反応に伴う熱の出入りについて理解する。 化学反応の熱・光について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 化学反応の熱・光に関する事象・現象に主体的に関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱化学方程式</li> <li>光化学反応</li> <li>化学発光</li> <li>ヘスの法則</li> <li>反応熱</li> </ul>	<p>【知識・技能】 化学反応の熱・光についての観察、実験などを通して、熱化学方程式、化学反応に伴う熱の出入りについて理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】 化学反応の熱・光について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学反応の熱・光に関する事象・現象に主体的に関わる。</p>	○	○	○	3

	<p>2章電池と電気分解についての観察、実験などを通して、身近にある電池の構造、二次電池の放電と充電について理解する。 電池と電気分解について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 電池と電気分解に関する事物・現象に主体的に関わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料電池</li> <li>・ダニエル電池</li> <li>・ボルタ電池</li> <li>・鉛蓄電池</li> <li>・電気分解</li> <li>・ファラデーの法則</li> </ul>	<p>【知識・技能】 電池と電気分解についての観察、実験などを通して、身近にある電池の構造、二次電池の放電と充電について理解する。 【思考・判断・表現】 電池と電気分解について、問題を見出し見通しを持って観察、実験を行い、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 電池と電気分解に関する事物・現象に主体的に関わる。</p>	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学 期	<p>1章 化学反応の速さについて、反応速度の求め方や速度定数について化学的な側面から理解させる。 化学反応の速さについて、問題を見出し、科学的に考察し表現する。 化学反応の速さに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反応速度</li> <li>・反応条件</li> <li>・触媒</li> <li>・活性化エネルギー</li> </ul>	<p>【知識・技能】 化学反応の速さについて、反応速度の求め方や速度定数について化学的な側面から理解させる。 【思考・判断・表現】 化学反応と速さについて、問題を見出し、科学的に考察し表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 化学反応と速さに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
					○	○	合計

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 併合科 普通科

教科担当者：高松 百合香 池野 弘恵

使用教科書：（新高等 保健体育 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知・技	思	態	配当 時数
○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。	体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に活かす運動の計画	○体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることを言ったり書き出したりしている。リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。体調の維持などの健康の保持増進をねらいとして、各種の有酸素運動や体塊などの施設や器具を用いず手軽に行う運動例や適切な食事や睡眠の管理の仕方を取り入れて、卒業後も継続可能な手軽な運動の計画を立てて取り組むことができる。 ○生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案し、他者に伝えている。 ○体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	3
○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解することができるようにする。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	体育理論 (7)運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害 (4)スポーツの技術と技能及びその変化 (9)運動やスポーツの技能の上達過程	○運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることを言ったり書き出したりしている。運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること。技術の種類に応じた学習の仕方があること。現代のスポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていることを言ったり、書き出したりしている。運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること。これらの獲得には、一定の期間がかかることを言ったり、書き出したりしている。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見し、他者に伝えようとしている。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3

1 学期	<p>○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>球技 イ ゴール型（ハンドボール）</p>	<p>○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。防御をかわって相手陣地やゴールにボールを運ぶことができる。チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすることができる。</p> <p>○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。</p> <p>○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>	○	○	○	10
	<p>○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができるようにする。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>○主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができる。</p>	<p>水泳 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ バタフライ</p>	<p>○水泳では、各種目や運動の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、効率のよい泳ぎにつながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを言ったり、書いたりしている。肘を曲げて腕全体で水をとらえ、加速するように泳ぐことができる。（クロール）プルのかき終わりと同時に、顎を引いて口を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて、流線型の姿勢を維持して大きく伸びることができる。（平泳ぎ）水平姿勢を維持しながら泳ぐことができる。（背泳ぎ）体のうねり動作に合わせたしなやかなドルフィンキックをすることができる。（バタフライ）</p> <p>○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。</p> <p>○水泳の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>○水泳の事故防止の心得を遵守し、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保しようとしている。</p>	○	○	○	10
	<p>○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>球技 イ ネット型（バレーボール）</p>	<p>○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。サーブでは、ボールに変化をつけて打つことができる。変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。</p> <p>○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。</p> <p>練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について仲間に提案している。</p> <p>○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>	○	○	○	8

2 学 期	<p>○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>○主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<p>陸上競技 ア 短距離走・リレー イ 長距離走 ウ ハードル走 ク やり投げ</p>	<p>○陸上競技では、各種目の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的な練習の仕方があることを言ったり書き出したりしている。高いスピードを維持して走る中間走では、体の真下近くに足を接地したり、キックした足を素早く前に運んだりするなどの動きで走ることができる。(短距離走) リレーでは、大きな利得距離を得るために、両走者がスピードにのり、十分に腕を伸ばした状態でバトンを渡すことができる。(リレー) 自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。(長距離走) インターバルでは、3歩のリズムを最後まで維持して走ることができる。(ハードル走) 投げの動作では、投げる側の腕を大きく振ることができる。(やり投げ)</p> <p>○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。</p> <p>○陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	9
	<p>○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解することができるようにする。</p> <p>○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。</p>	<p>体育理論 (x) 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方</p>	<p>○運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められることを言ったり書き出したりしている。</p> <p>○運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えようとしている。</p> <p>○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1
	<p>○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<p>体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に活かす運動の</p>	<p>○体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることを言ったり書き出したりしている。リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気持ちいたり関わり合ったりすることができる。体調の維持などの健康の保持増進をねらいとして、各種の有酸素運動や体操などの施設や器具を用いず手軽に行う運動例や適切な食事や睡眠の管理の仕方を取り入れて、卒業後も継続可能な手軽な運動の計画を立てて取り組むことができる。</p> <p>○生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案し、他者に伝えている。</p> <p>○体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>	○	○	○	4
	<p>○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<p>球技 ウ ベースボール型(ソフトボール)</p>	<p>○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。守備スペースが空いた方向をねらってボールを打ち返すことができる。仲間の走者の動きに合わせて、塁を進んだり戻ったりすること。仲間の送球に対して次の送球をしやすいようにボールを受けることができる。打者の特徴や走者の位置に応じた守備位置に立つことができる。</p> <p>○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行いについて仲間に提案している。</p> <p>○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>	○	○	○	8

	<p>○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	<p>球技 イ ネット型(卓球)</p>	<p>○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。</p> <p>○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。</p> <p>・練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について仲間に提案している。</p> <p>○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>	○	○	○	12
3 学 期	<p>○豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解することができるようにする。</p> <p>○豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。</p> <p>○豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>体育理論 (7)ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方 (4)ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方 (9)スポーツ推進のための施策と諸条件 (2)豊かなスポーツライフが広がる未来の社会</p>	<p>○スポーツは、各ライフステージにおける身体的、心理的、社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があること。また、その楽しみ方は、個人のスポーツに対する欲求などによっても変化することを言ったり書き出したりしている。</p> <p>生涯にわたってスポーツを継続するためには、ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方を見付けること、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすることなどが必要であることを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>スポーツの推進は、様々な施策や組織、人々の支援や参画によって支えられていることを言ったり書き出したりしている。人生に潤いをもたらす貴重な文化的資源として、スポーツを未来に継承するためには、スポーツの可能性と問題点を踏まえて適切な「する、みる、支える、知る」などの関わりが求められることを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>○ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見し、他者へ伝えようとしている。豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えようとしている。</p> <p>○豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
							合計
							70

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 併合科 普通科

教科担当者：高松 百合香

使用教科書：（新高等 保健体育 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
○大気汚染による健康への影響について理解する。 ○地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。	1. 大気汚染と健康	○人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
○水質汚濁による健康への影響について理解する。 ○土壌汚染による健康への影響について理解する。	2. 水質汚濁・土壌汚染と健康	○人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
○環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。 ○産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。	3. 健康被害を防ぐための環境対策	○健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するためには、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1

<p>○安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。 ○生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。</p>	<p>4. 環境衛生に関わる活動</p>	<p>○上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1
<p>○食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。 ○人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。</p>	<p>5. 食品の安全性と健康</p>	<p>○人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ○食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
<p>○食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。 ○食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。</p>	<p>6. 食品の安全性を確保する取り組み</p>	<p>○食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ○食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1

<p>○保健行政の役割について理解する。 ○健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。</p>	<p>7. 保健制度とその活用</p>	<p>○我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
<p>○医療保険の仕組みについて理解する。 ○医療サービスの適切な活用方法について理解する。</p>	<p>8. 医療制度とその活用</p>	<p>○健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
<p>定期考査</p>			○	○		1

<p>○医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 ○医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。</p>	<p>9. 医薬品の制度とその活用</p>	<p>○医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自己や社会の課題を発見している。 ○医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自己や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
<p>○日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 ○国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。</p>	<p>10. 様々な保健活動や対策</p>	<p>○我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自己や社会の課題を発見している。 ○地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。 ○様々な保健活動や社会的対策について、自己や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1
<p>○自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。 ○健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。</p>	<p>11. 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり</p>	<p>○自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることに、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。 ○健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
<p>○思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ○思春期に起こりやすい健康課題について理解する。</p>	<p>1. 思春期と健康</p>	<p>○思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自己や社会の課題を発見している。 ○思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1

2  
学期

<p>○自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。 ○性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。</p>	<p>2. 性意識の変化と性行動の選択</p>	<p>○思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1
<p>○結婚生活と健康との関係について理解する。 ○結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。</p>	<p>3. 結婚生活と健康</p>	<p>○結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ○生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうと</p>	○	○	○	1
<p>○受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ○妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。</p>	<p>4. 妊娠・出産と健康</p>	<p>○受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ○生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうと</p>	○	○	○	2
<p>○家族計画の意義について理解する。 ○人工妊娠中絶が心身に与える影響について理解する。</p>	<p>5. 家族計画</p>	<p>○家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうと</p>	○	○	○	2

<p>○加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ○若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。</p>	<p>6. 加齢と健康</p>	<p>○高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ○生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>○高齢社会における健康課題について理解する。 ○高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。</p>	<p>7. 高齢社会に対応した取り組み</p>	<p>○中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1
<p>○働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ○働く人における健康問題について理解する。</p>	<p>8. 働くことと健康</p>	<p>○労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に活用している。 ○労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ○労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	1

字 期	<p>○労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。 ○労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。</p>	9. 労働災害の防止	<p>○労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ○労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ○労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
	<p>○職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。 ○働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。</p>	10. 働く人の健康づくり	<p>○働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、を理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ○労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ○労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
定期 考査				○	○		1 合計 35

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教科: 芸術 科目: 音楽Ⅱ 単位数: 2 単位

対象学年組: 第2学年 N.F組

教科担当: (中島英音)

使用教科書: (教育芸術社: MOUSA)

教科: 芸術

の目標:

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現をしたり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ	の目標:	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創作者を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする	個性豊かに音楽表現を創出工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたる関心をもち、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う		

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価	評価規程	知	思	態	配当時数	
		歌	器	創							
1 学期	A ソルフェージュ ・リズムを正確に読む ・メロディーを指名で歌う ・リズムを聴き取る ・音楽を形づくっている要素の感さや効果などに関する思考力、判断力、表現力をつける ・音楽作家の表現をするための基礎となるリズムを大切にさせる	・リズムを正確に読む ・メロディーを指名で歌う ・リズムを聴き取る ・音楽を形づくっている要素の感さや効果などに関する思考力、判断力、表現力をつける ・音楽作家の表現をするための基礎となるリズムを大切にさせる	○	○		【知識・技能】 曲想と音楽の構造について理解している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、拍子、アクセント、強弱を知り、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音楽の構造に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もう					14
	B ・どのような曲か理解させる ・歌詞の意味を理解させる ・作曲家について知る ・歌詞の表現方法を考えさせる ・歌詞と旋律の情景を考えさせる ・英語を覚えさせる ・音程を付けてリズムで歌わせる ・無音音、音を認識させる ・歌詞で歌わせる	SUN ・どのような曲か理解させる ・歌詞の意味を理解させる ・作曲家について知る ・歌詞の表現方法を考えさせる ・歌詞と旋律の情景を考えさせる ・英語を覚えさせる ・音程を付けてリズムで歌わせる ・無音音、音を認識させる ・歌詞で歌わせる	○			【知識・技能】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解するとともに、創作者を生かした音楽表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を身に付け、歌唱で表現している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、アクセント、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて独自の表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もう					8
	C ・どのような曲か理解させる ・自分の担当するパートを決めさせる ・意識をさせる ・他のパートを聴きながらアンサンブルをさせる ・メトロノームを利用して適切なテンポで演奏できるようにさせる	・シンセサイザーでドラム ・人生のメロデーランド	○			【知識・技能】 曲想と音楽の構造及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解するとともに、創作者を生かした音楽表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、身体の使用などの技能を身に付け、器楽で表現している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、アクセント、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて独自の表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音楽の構造によって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もう					15
2 学期	D ・楽器の構造について理解させる ・組み立て方について理解させる ・構え方について理解させる ・バチの使い方について理解させる ・文化語について理解させる ・どのような曲か理解させる ・構成をさせる ・伴奏に合わせて演奏させる ・伴奏をよく聴き演奏させる	＝味噌 ・楽器の構造について理解させる ・組み立て方について理解させる ・構え方について理解させる ・バチの使い方について理解させる ・文化語について理解させる ・どのような曲か理解させる ・構成をさせる ・伴奏に合わせて演奏させる ・伴奏をよく聴き演奏させる	○			【知識・技能】 曲想と和楽器の音色や奏法との関わりによって生み出される表現上の効果について理解するとともに、創作者を生かした音楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使用などの技能を身に付け、器楽で表現している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、アクセント、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて独自の表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と和楽器の音色や奏法との関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に和楽器の学習活動に取り組もう					5
	E 映画音楽について学び、映画や楽曲を鑑賞させる	映画『ハリウッドスターと賢者の石』				【知識・技能】 音楽の物語と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している 【思考・判断・表現】 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組んでいる					2
	F 『オペラ座の怪人』のストーリーについて理解させる ・今後の授業で歌われる曲について特に注目して鑑賞させる	オペラ座の怪人	○			【知識・技能】 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに歌唱表現を創出工夫している 【思考・判断・表現】 様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 創作者を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などについて理解している					7







年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

音楽 科目 声楽A

教科：音楽 科目：声楽A

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 N・F組

教科担当者：（中島 美音）

使用教科書：（コールユーブンゲン、コンコーネ、イタリア歌曲集）

教科 音楽

の目標：

【知識及び技能】音楽に関する幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】音楽に関する知識や技能を働かせ、音楽の表現内容を解釈したり、表現意図をもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に音楽に関する学習に取り組む態度を養う。

科目 声楽A

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
楽曲の表現内容について深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができるようにする。	音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
1 学 期	A 【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 歌詞の内容や言葉のもつ語感について考えたり、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うかについて考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かし、音楽性豊かな歌唱表現を生み出させる。	・コールユーブンゲン ・コンコーネ50番練習曲より第1番 ・イタリア歌曲より『Caro mio ben』	○		○	【知識・技能】 楽曲の表現内容について深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている 【思考・判断・表現】 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 音楽性豊かな表現を追求している	○	○	○	10
	B 【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 歌詞の内容や言葉のもつ語感について考えたり、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うかについて考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かし、音楽性豊かな歌唱表現を生み出させる。	・コールユーブンゲン ・コンコーネ50番練習曲より第2番 ・イタリア歌曲より『Sebben crudele』	○		○	【知識・技能】 楽曲の表現内容について深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている 【思考・判断・表現】 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 音楽性豊かな表現を追求している	○	○	○	10
	C 【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 歌詞の内容や言葉のもつ語感について考えたり、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うかについて考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かし、音楽性豊かな歌唱表現を生み出させる。	・コールユーブンゲン ・コンコーネ50番練習曲より第3番 ・イタリア歌曲より『Sento nel core』	○		○	【知識・技能】 楽曲の表現内容について深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている 【思考・判断・表現】 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 音楽性豊かな表現を追求している	○	○	○	10

2 学 期	D	<p>【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方を理解させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 歌詞の内容や言葉のもつ語感について考えたり、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うかについて考えさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かし、音楽性豊かな歌唱表現を生み出させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コールユーブンゲン</li> <li>・コンコーネ50番練習曲より第4番</li> <li>・イタリア歌曲より『Caro laccio』</li> </ul>	○	○	<p>【知識・技能】 楽曲の表現内容について深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている</p> <p>【思考・判断・表現】 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 音楽性豊かな表現を追求している</p>	○	○	○	10
	E	<p>【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方を理解させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 歌詞の内容や言葉のもつ語感について考えたり、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うかについて考えさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かし、音楽性豊かな歌唱表現を生み出させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コールユーブンゲン</li> <li>・コンコーネ50番練習曲より第5番</li> <li>・イタリア歌曲より『Se tu m'ami』</li> </ul>	○	○	<p>【知識・技能】 楽曲の表現内容について深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている</p> <p>【思考・判断・表現】 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 音楽性豊かな表現を追求している</p>	○	○	○	10
	F	<p>【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方を理解させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 歌詞の内容や言葉のもつ語感について考えたり、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うかについて考えさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かし、音楽性豊かな歌唱表現を生み出させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コールユーブンゲン</li> <li>・コンコーネ50番練習曲より第6番</li> <li>・イタリア歌曲より『Vergin, tutto amor』</li> </ul>	○	○	<p>【知識・技能】 楽曲の表現内容について深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けている</p> <p>【思考・判断・表現】 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができる</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 音楽性豊かな表現を追求している</p>	○	○	○	10



年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科: 外国語 科目: 英語コミュニケーションⅡ 単位数: 4 単位

対象学年組: 第2学年 F組～ 組

教科担当者: (F組: 石田、小林) (組: ) (組: ) (組: ) (組: ) (組: )

使用教科書: (COMET English Communication II )

教科 外国語 の目標:

【知識及び技能】大学入試にも対応可能な程度の単語や文法の基礎知識を身につけさせる

【思考力、判断力、表現力等】論理的・客観的に物事を理解し、様々な話題に関して自分の意見を英語で表現する方法を身につけさせる

【学びに向かう力、人間性等】英語に興味を持たせ、生徒自身の可能性に気付かせるとともに、高校卒業後も自ら学び続けられるような動機づけをする

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
単語や熟語、文法、文構造等の基礎・基本的な知識を習得する	様々な話題に関して、情報や考えなどをよりの確に理解したりより適切に詳細を伝えたりする力を養う	教科書の単元で扱われる話題を実際の生活と結び付けて、英語に興味を持たせる

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
		聞	読	話 (「や」 「発」)	書					
1 学期	・want+人+to不定詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	11
	・疑問詞+to不定詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
	・分詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	11
	・if節、疑問詞節を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	12
定期考査						○	○		1	
2 学期	・seemの用法を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	13
	・助動詞+have+過去分詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	14
	定期考査						○	○		1
	・過去完了形を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	13
	・関係代名詞whatを理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	14
定期考査						○	○		1	
3 学期	・関係副詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	18
	・使役動詞を理解させる。 ・本文の内容を理解させる。 ・批評的思考力を伸ばすとともに自分の意見を英語で表現できるようにする。	・単元に関する話題について意見交換 ・新出単語、文法、・本文読解 ・slash reading/sight translation ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	18
									合計	140





年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 農業 科目 総合実習

教科：農業 科目：総合実習 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年1組

教科担当者：（1組：荒城 新 石井 陽次 中嶋 龍也）

使用教科書：（なし）

教科 農業 の目標：

【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造の知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探求的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとする態度を養う。

科目 総合実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・草花、野菜、食品の3分野に関する知識、技術の理解と定着を実習場面を介して深化させる技能を身に付けている。	・草花、野菜、食品に関する知識や技術を実習の場面において柔軟な思考力を持って対応している。	・課題の解決に向け、探求的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	・食品製造の目的を学ぶことで、食品製造と調理の違いを理解できるようにする。 ・食生活を含めた生活文化の変化により、消費者のニーズも変化し、これに合わせた加工食品の製造が進んだことを理解できるようにする。 ・食品産業が常に解決し続けなければならない問題に、安全性の確立、環境問題、原料の安定供給があることを理解できるようにする。	食品製造の意義	・食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け、食品産業の社会的な役割について理解している。 ・食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 ・食品製造の意義、食品産業の現状と動向について興味・関心をもち、食品産業の社会的な役割と暮らしとの関わりについて探究しようとしている。	○	○		2
	・加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 ・小麦粉の加工の原理と、クッキー、マドレーヌの製造工程を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、クッキー、マドレーヌの製造を行うことができる。	穀類の加工 【クッキーの製造】 【マドレーヌの製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	8
	・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。	園芸作物の栽培 【野菜の栽培】 【草花の栽培】	・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
2 学 期	・加工食品の原材料としての果実類の特徴と種類を理解させる。 ・果実類の代表的な加工食品である、ジャム、ジュース、缶詰および乾燥果実の製造方法と理論を理解させる。徴を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、ジャムの製造を行うことができる。	園芸加工 【ジャム製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	4
	・加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 ・小麦粉の加工の原理と、パン、スポンジの製造工程を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、丸パン、スポンジの製造を行うことができる。 ・デコレーションケーキのデザインの考え方を理解し、デザインができるようになる。	穀類加工 【丸パンの製造】 【デコレーションケーキの製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	12



年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度(2学年用) 教科

農業 科目 草花

教科: 農業

科目: 草花

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組

教科担当者: ( 1組: 石井 陽々

使用教科書: ( 草花 (実教出版) )

教科 農業

の目標:

- 【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 草花

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章「草花」とプロジェクト学習 【知識及び技能】 草花生産と経営に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 草花生産と経営に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。 【学びに向かう力、人間性等】 草花生産と経営について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むこと。	草花とプロジェクト学習 (1) プロジェクト学習とは (2) プロジェクトの進め方 (3) 草花におけるプロジェクト学習	【知識・技能】 1年次「農業と環境」で習得したプロジェクト学習の方法を踏まえ、課題設定、計画立案、実施、まとめ(反省と評価)の一連の流れを立てることができるか。 【思考・判断・表現】 科学的な見方と、自ら課題意識をもち、その課題を解決しようとしているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 草花生産の現状について自分の意見を踏まえ、問題点を抽出・整理することができるか。また、改善策を導き出そうとしているか。	○	○	○	6
	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討すること。 【学びに向かう力、人間性等】 種子袋から、植物にあった播種・育苗方法をとらえること。	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (1) ベチュニア (7) その他の花壇用草花	【知識・技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようとしているか。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、特性に応じて鉢上げ作業や植え付けをすること。 【思考力、判断力、表現力等】 草花の特徴を踏まえたうえで花壇のデザインを設計すること。 【学びに向かう力、人間性等】 鉢上げ作業や植え付け作業において、設計に沿って施工し、見栄えの良いものを施工しようとする。	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (1) ベチュニア (7) その他の花壇用草花	【知識・技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、適切な鉢上げ作業や植え付け作業ができるか。 【思考・判断・表現】 草花の高さや色合いなどの特徴を踏まえ、花壇のデザインが設計できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループで協力して作業を行うことができているか。レポート課題を期限内に提出できているか。	○	○	○	18
定期考査			○	○		1	



年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 農業 科目 野菜

教科：農業 科目：野菜 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～ 組

教科担当者：（1組：荒城 新）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（野菜（実教出版））

教科 農業

の目標：

- 【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 野菜

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
野菜について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	第1章野菜生産の役割と動向 ・野菜を分類し、多くの種類を体系的に理解させる。 ・野菜の栄養価などの重要性を理解させる。 ・野菜の消費と生産の現状と動向を学習する。とりわけ消費者ニーズが多様化するなかで、品種改良や作型・栽培技術の発展・改良、輸入野菜の増加などについても理解させる。	1. 野菜の種類と利用 (1) 野菜の種類と利用 (2) 野菜の分類 2. 野菜の消費 (1) 消費動向の変化 (2) 野菜の消費量 (3) 消費の多様化	・野菜の種類と分類に関心をもって、共通点と違いなどを理解しようとしたか。 ・分類方法が理解できて、いろいろな野菜を分類できたか。 ・原産地や来歴、利用の仕方などにも興味を持ち、調べようとしたか。 ・野菜の種類と消費量の変化について主な理由を考えられるか。 ・野菜消費量の推移に関する資料を探して、目的にあった情報を抽出してデータ処理ができるか。	○	○	○	6
	第4章 果実を利用する野菜 ・キュウリやトマトは生産量も多く、重要な野菜であることを理解させる。 ・栽培上の特性は観察や実験実習を通して学ばせ、結果習性が品種や栽培環境によって変わることを学び、作型や栽培様式の違いができることを科学的に考える力を養う。 ・マルチング、植え付け、支柱立て、整枝・誘引、かん水、追肥、収穫、病虫害予防管理の目的と方法を理解させ、実施できるようにする。 ・栽培と品質の評価をして、栽培の改善や品質を向上させる方法について考えさせる。	4 キュウリ 5 トマト	・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解できたか。 ・トマトやキュウリの着花習性を観察できたか。 ・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということ、野菜の特性と比べて理論的に考えることができたか。 ・教材として取り上げた果実類の特性を理解しようとしたか。 ・トマトやキュウリの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行ったか。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調整技術 ・野菜の種まきから収穫までの生育過程と生理的特徴を理解させ、栽培と環境についても理解させる。 ・野菜栽培とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・野菜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。	1. 野菜の生育と生理 (1) 野菜の生育 (2) 種子と発芽 (3) 茎と葉の成長 (4) 光合成のしくみと物質の生産	・主な野菜の各生育段階における特徴を理解できたか。 ・発芽に関しては、温度・光の条件によって発芽率が違うことから、各野菜の発芽に重要な環境要素を考えたり、好適な発芽環境を判断できるか。 ・野菜の各生育段階における生育特性にいろいろな疑問を持ち、それらを解決しようとするか。	○	○	○	6

	<p>第4章 果実を利用する野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピーマンやエダマメは生産量も多く、重要な野菜であることを理解させる。</li> <li>・栽培上の特性は観察や実験実習を通して学ばせ、結果習性が品種や栽培環境によって変わることを学び、作型や栽培様式に違いがあることを科学的に考える力を養う。</li> <li>・マルチング、植え付け、支柱立て、整枝・誘引、土寄せ、かん水、追肥、収穫、病虫害予防管理の目的と方法を理解させ、実施できるようにする。</li> <li>・栽培と品質の評価をして、栽培の改善や品質を向上させる方法について考えさせる。</li> </ul>	<p>7ピーマン 9エダマメ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解できたか。</li> <li>・定植、誘引、土寄せ、適期収穫、病虫害の防除、肥培管理などが的確に行えたか。</li> <li>・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということを、野菜の特性と比べて理論的に考えることができたか。</li> <li>・教材として取り上げた果菜類の特性を理解しようとしたか。</li> <li>・ピーマンやエダマメの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行ったか。</li> </ul>	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	<p>第3章 野菜の育苗</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。</li> <li>・それぞれの育苗管理に関して、なぜそのような育苗方法をとるのかを理論的に考えることができたか。</li> <li>・育苗の目的と良い苗の特徴を理解し、育苗計画が立てられるようにする。</li> </ul>	<p>1. 育苗の目的と方法 (1) 育苗の意義と良苗の条件 (2) 育苗・苗生産の歴史と現状 (3) 野菜苗の育苗方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な野菜の良い苗が備えるべき条件を理解できたか。</li> <li>・育苗方法が理解できて具体的な知識が得られたか。</li> <li>・主な野菜について良い苗の判断ができたか。また、それぞれの育苗管理に関して、なぜそのような育苗方法をとるのかを理論的に考えることができたか。</li> <li>・育苗に関心があり、良い苗を育てるための方法を探索しようとするか。</li> </ul>	○	○	○	4
	<p>第4章 果実を利用する野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カボチャやナスは需要も多い重要な野菜であることを理解させる。</li> <li>・通して学ばせる。特に整枝方法や紫外線が発色に影響することを観察させ、栽培環境と生育との関係を科学的に考えさせる。</li> <li>・栽培管理をよく理解し、着果や整枝の重要性、かん水管理が実際に管理できるようにする。</li> </ul>	<p>4カボチャ 6ナス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解できたか。</li> <li>・定植、誘引、着果促進、適期収穫、病虫害の防除、肥培管理などが的確に行えたか。</li> <li>・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということを、野菜の特性と比べて理論的に考えることができたか。</li> <li>・教材として取り上げた果菜類の特性を理解しようとしたか。</li> <li>・カボチャやナスの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行ったか。</li> </ul>				17
	定期考査			○	○		1
2学期	<p>第3章 野菜の育苗</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用土の準備から種まきやつぎ木、温度管理などが実際にできるようにする。</li> <li>・それぞれの育苗管理に関して、なぜそのような育苗方法をとるのかを理論的に考えることができたか。</li> <li>・野菜の種類と栽培に応じたつぎ木の目的と方法が理解できるようにする。</li> </ul>	<p>2. 育苗技術の実際と応用 (1) 育苗培地の種類と作成法 (2) 種まきおよび個々の育苗管理技術 (3) つぎ木育苗技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の種類と栽培に応じたつぎ木の目的と方法が理解できたか。</li> <li>・つぎ木の技能が修得できたか。</li> <li>・用土の準備や種子選定、種まき、つぎ木、温度・かん水管理などの育苗技術を意欲的に習得しようとするか。</li> </ul>	○	○	○	5
	<p>第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクサイの発芽・生育に適した温度・光・土壌などの条件を学び、栽培に活用できるようにする。</li> <li>・ハクサイは低温による花芽分化しやすいことを理解させ、季節によって産地が大きく異なる理由も考えさせる。</li> </ul>	<p>2ハクサイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解できたか。</li> <li>・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということを、野菜の特性と比べて理論的に考えることができたか。</li> <li>・教材として取り上げた果菜類の特性を理解しようとしたか。</li> <li>・ハクサイの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行ったか。</li> </ul>	○	○	○	7

	<p>第6章 根を利用する野菜の栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイコンの発芽・生育に適した温度・光・土壌・水分などの条件を学び、栽培に活用できるようにする。種まき後の水管理が重要なことと、間引き管理が重要なことを体験的に理解させる。</li> <li>冷涼な気候を好み、省力化できることを理解させ、季節によって品種や産地が大きく異なる理由も考えさせる。</li> <li>栽培と収穫量・品質などの評価・検討を行い、経営改善について考えさせる。</li> <li>ダイコンの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行う。</li> </ul>	1 ダイコン	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解できたか。</li> <li>病害虫や生理障害を的確に観察できたか。</li> <li>栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということ、野菜の特性と比べて理論的に考えることができたか。</li> <li>教材として取り上げた根菜類の特性を理解しようとしたか。</li> <li>ダイコンの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行ったか。</li> </ul>	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
3 学期	<p>第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調整技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の種まきから収穫までの生育過程と生理的特徴を理解させ、栽培と環境についても理解させる。</li> <li>野菜栽培とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。</li> <li>野菜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。</li> </ul>	<p>1. 野菜の生育と生理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(5) 根の発達と肥大</li> <li>(6) 葉菜類の花芽形成と抽だい</li> <li>(7) 果菜類の花芽分化と果実の発育</li> <li>(8) 休眠</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な野菜の各生育段階における特徴を理解できたか。</li> <li>野菜の生育が温度や光、土壌環境などの違いによって大きく変わることを理解できたか。</li> <li>成長や花芽分化、抽だい、開花、結実などについても同じように思考・判断ができるか。</li> <li>発芽や花芽分化が温度・光環境によって違うことを実験を通して調べようとするか。</li> </ul>	○	○	○	6
	<p>第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブロッコリーやホウレンソウの生育に適した温度・日長・土壌などの条件を学び、栽培に活用できるようにする。特に長日植物であり、作型に応じて品種選定をすることなども理解させる。</li> <li>土壌反応が中性を好むことを実験を通して理解させる。また、冷涼な気候を好み、長日で開花することを理解させる。</li> <li>栽培と収穫量・品質などの評価・検討を行い、経営改善について考えさせる。</li> </ul>	<p>4 ブロッコリー</p> <p>6 ホウレンソウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解できたか。</li> <li>温度や日長と花芽分化・抽だいの関係に関する実験や調査が的確に行えたか。</li> <li>栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということ、野菜の特性と比べて理論的に考えることができたか。</li> <li>教材として取り上げた葉菜類の特性を理解しようとしたか。</li> <li>ブロッコリーやホウレンソウの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行ったか。</li> </ul>	○	○	○	14
定期考査			○	○		1	
合計							105

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

農業

科目 食品製造

教科：農業

科目：食品製造

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～ 組

教科担当者：中嶋 龍也

(組： ) (組： ) (組： ) (組： )

使用教科書：(食品製造(実教出版))

教科 農業

の目標：

【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 食品製造

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食べ物が変質する仕組み、加工の原理などの基礎を理解している。別科目総合実習での製造実習で扱った食品の加工原理などについて座学を通してより深い知識を身に付けられる	食品の特性と加工の原理を学び製造する際の品質と生産性の向上を図ることについて思考できる。	積極的に授業に参加し食品製造に関する知識の習得が行える。グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり対話によって考えを深めていく。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○食品製造の意義と動向 食品製造の目的を学ぶことで、食品製造と調理の違いを理解できるようにする。 ○食生活を含めた生活文化の変化により、消費者のニーズも変化し、これに合わせた加工食品の製造が進んだことを理解できるようにする。 ○食品産業が常に解決し続けなければならない問題に、安全性の確立、環境問題、原料の安定供給があることを理解できるようにする。	○食品製造とその目的 ○食生活と食品製造 食品産業の役割と動向 本の食品産業の課題	○食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け食品産業の社会的な役割を理解している ○食品産業の意義、食品産業の現状と動向に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識をもとに合理的に判断しその過程や結果を適切に表現している。 ○食品産業の意義、食品産業の現状と動向について興味・関心を持ち、食品産業の社会的な役割と暮らし十かかわりについて探求しようとしている。	○	○	○	5
	○食品加工と食品衛生 食品衛生について学ぶことで食品製造において必要な衛生観念を身に付けられる ○食品衛生を学ぶ上で必要な食中毒の知識を習得し、食中毒の発生防止について考えることができる ○食中毒の原因となる細菌やウイルスについて生物学的な観点から思考し食中毒の発生防止に関する考えを深められる	○食品と衛生 食品衛生行政と法律 ○食中毒 食品による危害と安全確保 食品による感染症・寄生虫・食物アレルギー ○食品添加物 添加物の規格と基準 ○食品添加物の安全評価	○食中毒や食品添加物の特徴を理解し、食品による事故を防ぐための食品衛生法と関係行政機関による監視体制の下で、加工食品が提供されていることを理解している ○食中毒や食品を介して発生する事故にどのようなものがあるのか、そしてそれを防ぎ安全な食品を提供するためにどのような衛生管理体制が構築されているのかを調査し、整理することができる。 ○食中毒や食品を介して発生する事故にどのようなものがあるのかを理解し、食品衛生から得た基礎的な知識をもとに安全な加工食品を製造する工程を検証できる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	○食品の変質と貯蔵 食品の変質と貯蔵について学び食品の変質させる複数の要因がありそれぞれの要因のかかわりについて理解させる。 ○食品の貯蔵法によって食品の変質要因を少なくさせていることを理解させる	○生物的要因による変質 ○物理的・化学的要因による変質 ○食品の貯蔵法の種類 乾燥による貯蔵 ○低温による貯蔵 殺菌による貯蔵 ○食塩・酢・砂糖による貯蔵 ○空気組成の調節による貯蔵 ○食品添加物による貯蔵	○加工した食品の品質を維持するために食品の変質の仕組みを理解しそれを防ぐために様々な食品の種類に応じた貯蔵法が存在していることを理解している。 ○食品の変質を防ぐために食品に応じて設定されている様々な貯蔵法について、市販されている加工食品に記載されている保存方法をまとも保存方法の仕組みについて説明できる。 ○加工した食品の品質を維持するために食品の変質の仕組みについて興味関心を持ち市販されている加工食品の種類による貯蔵法の違いについて探求しようとしている。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	
2 学 期	○食品製造の基礎 食品製造の基礎的な知識について食品の種類、栄養、身近な食品の化学を学ぶ。 ○様々な食品の種類を学ぶことで身近な食品についてのマーク（認証）の意味などを理解し、興味を深められる ○栄養の基礎を理解することで食材が人体に及ぼす影響に興味を持ち自ら調べ学習できる ○身近な食品の科学を身に付けることで科学的に食材の性質や製造の原理を理解する。	○食品の分類法 ○動物性油脂・植物性油脂 ○加工食品 ○身近な食品の科学 ○栄養素の種類 ○浸透圧 ○発酵 ○でんぷんのアルファ化 ○油脂の性質 ○酵素の働き ○免疫とアレルギー	○加工食品の特徴を理解し、食品の分類ができるとともに加工食品が日常生活で果たす役割を理解している。 ○加工食品における基本的な食品化学を踏まえながら加工食品の特徴を理解している。 ○食品の分類や身近な食品の科学の話題を踏まえて、さらに視野を広げて新しい加工食品の開発に意見を述べる ○食品製造に必要な基本的科学分野に興味関心を持ち加工食品の開発について科学的根拠を持ちながら探求している。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1

期	○農産物の加工 加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解させるとともに米及び小麦が加工食品の原料となるまでにどのように加工されるのか理解させる。	○穀類の種類と特徴 ○米 ○小麦 ○パン ○菓子類 ○麺類 ○豆類の加工 ○イモ類の加工	○原材料としての農産物の特徴、および農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ○原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。○農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる ○原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観に基づいた食品製造を行う意欲・態度を身につけている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学 期	○野菜類、果実類の加工について学ぶ。 加工食品の原料としての野菜類、果実類の特徴と種類を理解させる	○野菜類の特徴とその加工品 ○漬物 ○トマト加工品 ○果実類の特徴とその加工品 ○ジャム類 ○シラップ類 ○果実飲料	原材料としての農産物の特徴、および農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観に基づいた食品製造を行う意欲・態度を身につけている。	○	○	○	9
	○畜産物の加工について、特に実習での利用が多い牛乳、鶏卵の加工について学ぶ。 ○乳加工品の原料である牛乳の品質が乳加工品の品質に大きく作用することを理解させ、品質及び衛生管理を適切に行わなければならないことを理解させる。 ○鶏卵の加工特性などを理解させる。	○牛乳の成分と加工特性、乳加工品の特徴 ○牛乳 ○発酵乳、乳酸菌飲料 ○チーズ ○アイスクリーム ○バター	○原材料としての畜産物の特徴を理解し、畜産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。○畜産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の畜産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。 ○原材料を畜産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観に基づいた食品製造を行う意欲・態度を身につけている。	○	○	○	9
定期考査			○	○		1	
合計							
70							

年間授業計画

三宅高等学校 令和5年度（普通科2学年用） 教科 農業 科目 園芸利用Ⅱ

教科：農業 科目：園芸利用Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 組～組

教科担当者：中嶋 龍也、（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（なし）

教科 農業 の目標：

【知識及び技能】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 園芸利用Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食べ物が変質する仕組み、加工の原理などの基礎を理解している②別科目総合実習での製造実習で扱った食品の加工原理などについて座学を通しより深い知識を身に付けられる	食品の特性と加工の原理を学び製造する際の品質と生産性の向上を図ることについて思考できる。	積極的に授業に参加し食品製造に関する知識の習得が行える②グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり対話によって考えを深めていける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	○食品製造の意義について	○食品製造とその目的 ○食生活と食品製造 ○食品産業の役割と動向 ○日本の食品産業の課題	○食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け食品産業の社会的な役割を理解している ○食品産業の意義、食品産業の現状と動向に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識をもとに合理的に判断しその過程や結果を適切に表現している。 ○食品産業の意義、食品産業の現状と動向について興味・関心を持ち、食品産業の社会的な役割と暮らし十かかわりについて探求しようとしている。	○	○	○	4
	○GAP、HACCPについて	○GAP、HACCPの概要 ○食品製造実習におけるGAPの取組み	○GAPに関する基礎的な知識を身に付け、食品産業における重要性を理解している。○三宅高校で行っているGAPの取り組みを理解し、実践することができる。	○	○	○	3
	○イチゴの栽培管理	○イチゴの栽培特性 ○イチゴの栽培技術	○イチゴの栽培を通して、ジャムの原料となる果実類の生育特性を学び、季節感や原料の加工に関する基礎的な知識を身に付ける。	○	○		2
	○製茶実習	○チャの栽培特性 ○緑茶の製造工程	○茶葉の収穫を通してチャの栽培特性や栽培技術を身に付ける。○製茶工場の見学を通して緑茶の製造工程、加工原理を理解することができる。	○	○	○	4
	○穀類の加工	○穀類の種類と特徴について	○穀類の種類とその特徴を知り、加工原理を理解する。○穀類加工室の使い方を学ぶ	○	○		2
	○クッキーの製造	○クッキーの製造技術 ○油脂のクリーミング性 ○油脂のショートニング性 ○小麦粉の種類と加工適正 ○ベーキングパウダーの働き	○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に付ける。 ○クッキーの製造を通して油脂のクリーミング性やショートニング性などの加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。 ○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身に付け、実践できる。	○	○	○	4
	○茶畑の管理	○チャの栽培特性 ○チャの生育特性	○茶畑の除草を通して茶ノ木の生育状況を把握し、チャの栽培特性、生育特性についての知識を身に付けられる。	○	○	○	2
	○マドレーヌの製造	○マドレーヌの製造技術 ○バターケーキ生地製造 ○砂糖の種類と糖類	○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に付ける。 ○マドレーヌの製造を通してバターケーキの加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。 ○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身に付け、実践できる。	○	○		4
	定期考査			○	○		1

2 学 期	紅茶の製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紅茶の製造技術</li> <li>○紅茶の加工原理</li> <li>○茶の発酵と製造工程</li> <li>○紅茶の歴史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身につける。</li> <li>○紅茶の製造を通して発酵茶の加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。</li> <li>○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身につけ、実践できる。</li> </ul>	○	○	○	4
	○丸パンの製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パンの製造技術</li> <li>○パンの加工原理</li> <li>○パンの歴史</li> <li>○イースト菌の働き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身につける。</li> <li>○丸パンの製造を通してパンの加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。</li> <li>○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身につけ、実践できる。</li> </ul>	○	○		4
	○イチゴジャムの製造 ○ブルーベリージャムの製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ジャムの製造技術</li> <li>○ジャムの加工原理</li> <li>○果実類の種類や特性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身につける。</li> <li>○イチゴジャムの製造を通してジャム類の加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。</li> <li>○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身につけ、実践できる。</li> </ul>	○	○	○	4
	○デコレーションケーキの製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポンジケーキの製造技術</li> <li>○スポンジケーキの製造原理</li> <li>○生クリームの絞り方</li> <li>○洋酒、リキュールの種類</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身につける。</li> <li>○デコレーションケーキの製造を通してスポンジケーキの加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。</li> <li>○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身につけ、実践できる。</li> </ul>	○	○	○	4
	○食品表示について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品表示の意義と制度</li> <li>○食品と規格制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品の表示が、消費者へ食品の製造場所、原材料、消費および賞味期限など必要な情報を伝える役割をもつことを理解させる。</li> <li>○特色のある原材料を使用した加工食品にJASマークが使われていることを理解させる。</li> </ul>	○	○		2
	○栄養素の種類と働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○炭水化物</li> <li>○脂質</li> <li>○タンパク質</li> <li>○無機質</li> <li>○ビタミン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品に含まれる栄養素の基本的事項を理解させる。</li> <li>○食品に含まれる物質の特徴や生物学的な作用により、様々な加工食品が製造されていることを理解させる。</li> </ul>	○	○		2
	定期考査			○	○		1
	○シフォンケーキの製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シフォンケーキの製造技術</li> <li>○シフォンケーキの製造原理</li> <li>○シフォンケーキの歴史</li> <li>○卵白の特性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身につける。</li> <li>○シフォンケーキの製造を通してスポンジケーキの加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。</li> <li>○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身につけ、実践できる。</li> </ul>	○	○		4
	○豆腐の製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豆腐の製造技術</li> <li>○豆腐の製造原理</li> <li>○凝固剤の種類、特徴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身につける。</li> <li>○豆腐の製造を通して豆腐の加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。</li> <li>○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身につけ、実践できる。</li> </ul>	○	○		4

3 学 期	○シュークリームの製造	○シュークリームの製造技術 ○シュー生地 ○でんぷん ○生クリームの製造原理	○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に着ける。 ○シュークリームの製造を通してシュー生地、生クリームの加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。 ○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身に着け、実践できる。	○	○		4
	○和菓子（どら焼き）の製造	○和菓子に利用される餡の種類 ○餡の製造技術	○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に着ける。 ○和菓子の製造を通して、餡の加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。 ○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身に着け、実践できる。	○	○		4
	○饅頭の製造	○饅頭の製造技術 ○饅頭の歴史 ○味噌、醤油の歴史	○食品製造の原理や製造に関心を持ち、原材料の加工適正に応じた食品製造に関する知識を意欲的に吸収するとともに、衛生管理や品質と生産性の向上を図ろうとする創造的、実践的な態度を身に着ける。 ○饅頭の製造を通して、饅頭の加工原理を理解し再現性のあるレポートを作成できる。 ○原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど身に着け、実践できる。	○	○		4
	○チャの栽培管理（追肥）	○茶の生育特性 ○茶栽培の1年のながれ ○茶の栽培技術	○茶畑の栽培管理を通して、チャの栽培技術や生育特性など基本的な知識を身に着け実践することができる。 ○チャの栽培に関心を持ち意欲的に知識を吸収し、品質、生産性の向上を目指し、実践的な態度を身に着けられる。	○	○		2
	定期考査			○	○		1
						合計	70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭科 科目 家庭基礎

教科： 家庭科 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 農業科

教科担当者： 豊田睦月

使用教科書：（図説 家庭基礎（実教出版））

教科 家庭科	の目標：
【知識及び技能】	人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎	の目標：	
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	意	配当 時数
A 単元「青年期の自立と家族・家庭」 【知識及び技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と実践関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を充実向上を図るために実践しようとする。	・PICAサイクルのつりや生活設計について考える。 ・生活にはどのような場面で金銭が必要となるか考える。 ・青年期の生き方について自立の観点から学習する。 ・自己分析をすることで自分らしい生き方について考える。 ・生活を支える方働について学ぶ。 ・将来の職業選択について考える。 ・グラフを見ながら、生活時間について考え、男女の違いについて比較する。 ・これからの家庭生活や社会のあり方について、どのような改善が必要か考え、話し合う。 ・さまざまな家族形態について学ぶ。 ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。 ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。 ・家族に関する法律を知り、その理念や現在の動きについて学ぶ。	【知識・技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と実践関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	10
B 単元「衣生活と健康」 【知識及び技能】 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解するとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようになる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解するとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を充実向上を図るために実践しようとする。	・人と衣服のかかわりや、衣服の機能について学習する。 ・快適で安全な衣服について学習する。 ・繊維の種類と特徴、糸や布について学習する。 ・衣類素材の性能や加工・改善について学習する。 ・衣服の入手から処分までの流れを学習する。 ・衣服の表示を見ながら、衣服購入のポイントについて考える。 ・洗濯の種類と方法、洗剤のはたらきについて学ぶ。 ・家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。 ・衣生活と資源・環境のかかわり、また、環境に配慮した衣生活について学習する。 ・ファストファッションについて、事例を挙げながら話し合い、商品選択の際にむかふことを考える。	【知識・技能】 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解するとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	9
C 単元「ホームプロジェクト」 【知識及び技能】 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を充実向上を図るために実践しようとする。	・ホームプロジェクトに関心をもち、主体的に学習活動に取り組む。 ・生活上の課題を見いだし、その解決を目指して科学的に探究する。 ・生活上の課題に対する成果と課題をまとめて発表し、活動全体を振り返る。	【知識・技能】 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 【思考・判断・表現】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を充実向上を図るために実践しようとしている。				4
定期考査			○	○		1

<p>D単元「食生活と健康」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。</li> <li>・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解するとともに、目的に応じて調理に必要な技能を身に付ける。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べることで健康のかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する。</li> <li>・多次栄養素と水について学習し、からだとのつながりについて考える。</li> <li>・炭水化物の働きと、炭水化物を多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・脂質の働きと、脂質を多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・たんぱく質の働きと、たんぱく質を多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・ビタミンの働きと、ビタミンを多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・ミネラルの働きと、ミネラルを多く含む食品について学ぶ。</li> <li>・味に大きな影響を及ぼす調味料や香辛料、さまざまな加工食品について学ぶ。</li> <li>・食品の旬や選択の際のポイント、食品の品質表示について学ぶ。</li> <li>・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。また、食品添加物の使用の目的や安全性についても学ぶ。</li> <li>・調理の「連の流れ」を実践し、その理論やコツを学習する。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。</li> <li>・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じて調理に必要な技能を身に付けている。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	12
<p>E単元「共生社会と福祉」</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって表に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって表に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度について学習する。</li> <li>・それからの介護と課題について、事例を用いて考える。</li> <li>・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を学ぶ。</li> <li>・自助、互助、共助、公助の状況に応じたバランスを考える。</li> <li>・社会保険制度とその目的について学ぶ。</li> <li>・地域福祉の担い手を考え、助け合うことについて学ぶ。</li> <li>・ボランティア活動の必要性や意欲について、話し合いを通じて考える。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <p>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって表に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	4
<p>F単元「子どもの生活と保育」</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>子供の健全な発達のために親や家族及び地域や社会的果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の健康が将来の生まれてくる子どもにつながることを知り、育てる力について学ぶ。</li> <li>・子どもの身体の成長について、大きな流れと特徴を学ぶ。</li> <li>・発達の順序や、子どもの世界観について学ぶ。</li> <li>・人の発達において、保育や人との関わりがいかに関与しているかを、事例をもとに考える。</li> <li>・子どものよい生活習慣はすこやかな成長を促すことや、子どもの健康管理や安全対策の重要性について学ぶ。</li> <li>・おもちゃや絵本などの児童文化財が子どもの発達や生活にどのような影響を及ぼすかを考える。</li> <li>・子どもを生み育てる意義と人間形成の過程について考える。</li> <li>・これからの親子関係について、事例をもとに考える。</li> <li>・子育てにおける社会環境について考える。</li> <li>・仕事と子育てが両立できる環境について考える。</li> </ul>	<p>【知識・技能】</p> <p>乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>子供の健全な発達のために親や家族及び地域や社会的果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>	○	○	○	11
<p>定期考査</p>			○	○		1



年間授業計画

三宅 高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 家庭科 科目 フードデザイン

教科: 家庭科 科目: フードデザイン 単位数: 2 単位  
 対象学年組: 第 2 学年 普通科  
 教科担当者: 手塚博生  
 使用教科書: ( フードデザイン (教育図書) )

教科 家庭科 の目標:  
**【知識及び技能】** 人間の生涯にわたる発達と食生活の営みを総合的に捉え、「食」の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、食生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。  
**【思考力、判断力、表現力等】** 家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見いだして解決策を考え、考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。  
**【学びに向かう力、人間性等】** 生涯にわたり健康に生活するための食生活の構築に向けて、地域社会ともかかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び、食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 フードデザイン	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び食生活・食文化などについて、食生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見出して解決策を考え考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。	生涯にわたり健康に生活するための所K生活の構築に向けて、地域社会ともかかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	意	配当 時数
1 学期	<p>講義 1章「食事の意義と役割」 2章「栄養素の働きと食事計画」 実習関連 4章「調理の基本」 【調理実習】</p> <p><b>【知識及び技能】</b> 人の一生と家族・家庭及び食生活・食文化などについて、食生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見出して解決策を考え考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 生涯にわたり健康に生活するための所K生活の構築に向けて、地域社会ともかかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p>講義 1章「食事の意義と役割」 1節「食事の意義と役割」 2節「食をとりまく現状」 2章「栄養素の働きと食事計画」 1節「からだのしくみと食べ物」 2節～4節「炭水化物、脂質、たんぱく質」 5節～7節「ビタミン、ミネラル、水、その他の物質」 8節「消化と吸収」 9節「食事摂取基準と食事計画」 10節「ライフステージと栄養計画」</p> <p>実習関連 4章「調理の基本」 1節「調理とおいしさ」 2節「調理操作(実験)」 (調理実習) ・和風献立・洋風献立・中華献立 ・こどもの日の献立・病人食</p>	<p><b>【知識・技能】</b> 人の一生と家族・家庭及び食生活・食文化などについて、食生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解をしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> 家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見出して解決策を考え考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を身に付けている。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 生涯にわたり健康に生活するための所K生活の構築に向けて、地域社会ともかかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び食を主体的に創造しようとする実践的な態度を身に付けている。</p>	○	○	○	20

2 学 期	<p>講義 3章「食品の特徴・表示・安全」 5章「料理様式とテーブルコーディネート」 実習関連 3章「食品の特徴・表示・安全」 5章「料理様式とテーブルコーディネート」 【調理実習】 【知識及び技能】 人の一生と家族・家庭及び食生活・食文化などについて、食生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見出して解決策を考え考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり健康に生活するための所K生活の構築に向けて、地域社会ともかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p>講義 3章「食品の特徴・表示・安全」 1節「食品の特徴と性質」 2節「食品の生産と流通」 5章「料理様式とテーブルコーディネート」 2節「テーブルコーディネート」 【調理実習】 和風献立・供応食・敬老の日の献立・小麦粉を使った各国料理・クリスマス献立・正月料理</p>	<p>【知識・技能】 人の一生と家族・家庭及び食生活・食文化などについて、食生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解をしている。 【思考・判断・表現】 家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見出して解決策を考え考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたり健康に生活するための所K生活の構築に向けて、地域社会ともかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び食を主体的に創造しようとする実践的な態度を身に付けている。</p>	○	○	○	30
-------------	--	---	---	---	---	---	----

<p>講義 3章「食品の特徴・表示・安全」 6章「フードデザイン実習」 実習関連 《調理実習》 【知識及び技能】 人の一生と家族・家庭及び食生活・食文化などについて、食生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見出し解決策を考え考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり健康に生活するための食生活の構築に向けて、地域社会ともかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p>	<p>講義 3章「食品の特徴・表示・安全」 3節「食品の選択と表示」 4節「食品の衛生と安全」 6章「フードデザイン実習」 1節「献立作成」 実習関連 《調理実習》 ・お弁当献立・焼の節句献立・米を駆使した各国料理・誕生日、ホームパーティー献立</p>	<p>【知識・技能】 人の一生と家族・家庭及び食生活・食文化などについて、食生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解をしている。 【思考・判断・表現】 家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見出し解決策を考え考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯にわたり健康に生活するための食生活の構築に向けて、地域社会ともかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び食を主体的に創造しようとする実践的な態度を身に付けている。</p>	○	○	○	20
合計						
70						

